

意見概要及び事務局対応案
基本計画 総論 (2)土地利用方針

【対応案】①素案を修正する
②素案のとおりとする(実施計画・分野別計画などで対応含む)
③その他(検討等)

資料1

項目	番号	委員発言趣旨	素案P	事務局対応案	
				対応案	理由
現状と課題	1	《現状と課題》の5項目目の内容は、現状を記述していることから、順番を2番目に位置を変えて3項目目以降が課題であるというふうに課題をまとめた方が全体の流れとして見やすいのではないか。	17	①	ご意見のとおり順番を入れ替えて記載します。
	2	《現状と課題》の内容が「現状」と「課題」になっていないのではないか。	17	①	《現状と課題》の項目の順番を入れ替えるほか、わかりやすさの観点から現状と課題の記載内容を検討します。
現状と課題 土地利用の方針	1	3つの方針と課題の整合性を見た時に、課題にある「誰もが安心して暮らせる都市づくりの必要性」「住まいや活動を選択できる場所」などは3方針のどこにいかされているのかわかりづらい。	17,19	①	ご意見のとおり、課題に対応するようなかたちで記載内容を検討します。
土地利用の方針	1	方針3「連携軸の強化」について、道路と公共交通だけなのか、相互に連携すべき内容が他にもあるのではないか。	19	①	土地利用方針として、道路や公共交通を、各区の特色ある機能の連携に必要な軸として記載していますが、相互に連携すべきものについて具体的な例を挙げて補足します。
	2	多核連携都市のイメージについて、「各区が持つさまざまな機能を連携させ、市全体で活用する」とあるが、イメージしにくいので、イメージをふくらませることができるような具体例を提案してほしい。 病院機能など、目に見えるような拠点性による地域(各区)の連携の在り方などを示したほうがよいのではないか。 多核連携型都市における各区のネットワークについて、もう少し各区の機能について明確に記載をすることで、隣の区同士で1つのサービスを提供できるような姿が具体的に見えてくるとよいのではないか	18,19	①	相互に連携して活用する港、空港、文化施設等の各区のさまざまな機能については、具体例を用いるなど、わかりやすさの観点から記載内容を検討します。
	3	開発により、生活拠点が変わってきている現状がある中で、「現在の市街地規模を適切に維持していく」という方針がそのとおりに進められるのか。 土地利用の方針は、開発の誘導度合がどう図られるか、田園開発の規制をどうするかなど、新潟の今後あるべき姿を高らかに宣言する場所ではないか。 土地利用の方針は、開発が市全体、各区の持続的発展のための基盤の整備につながるのかという視点が重要である。	19	②	今後もこれまで同様に、本市の土地利用の方針として、「田園に包まれた多核連携型都市新潟らしいコンパクトなまちづくり」を掲げ、市全体や各区の持続的発展につながる開発を除き、市街地の拡大を抑制し、現在の市街地規模を適切に維持する方針とします。開発の誘導度合や田園開発の規制、農村集落の維持・活性化などの具体的な内容については、現在の都市計画マスタープランにおいて記載しております。 【都市計画マスタープランにおける記載】 ○郊外土地利用の調整制度(基本的な考え方) ・現在の市街地規模を維持する ・市街地周辺部などにおける新たな開発は、新潟市全体や各区の持続的な発展に繋がるような質の高い開発に限定する ○田園集落づくり制度(基本的な考え方) ・農村集落の定住人口や就業の場を増やし集落の維持・活性化につなげる ・市街化調整区域の原則は保持し、無秩序な市街化は防止する ・農用地区域においては農業振興を基本とする
	4	拠点形成を考えるうえで、農村集落についても考えていくことが重要ではないか。	19	②	